

国際的な環境規格として知られる「ISO14001」。認証取得が企業取引の条件になるなど環境対策に取り組み企業の「お墨付き」となっているが、費用も手間もかかるとして新たな版の普及に期待している。（小川記代子）

「簡易版」ISO続々

電気機械器具を販売するマコト電気（大阪市）は今年一月、「エコアクション21（EA21）」という環境規格の認証を受けた。

「EA21」は環境省がガイドラインを作成、地球環境戦略研究機関（IGES）が運営する。費用は十五万~四十万円でISOの一割程度。昨年十月から認証を始め、三百六十件を超えた。

マコト電気は社員約九十人。「ISOは手間も費用もかなりかかり、二の足を踏んでいた」と榎本幹男取締役は



ISO14001 環境マネジメントシステムに関する国際規格。企業が環境方針・計画を定め、実行を見直すという一連のサイクルを築くことで、審査を受ける。法的な拘束力はない。

費用や手間軽減 中小企業、普及に期待

話す。

京都市や事業者、市民らでつくる「京（みやこ）のアツエンダ21フォーラム」は四年前、環境規格「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」を始めた。

費用は基本的なステップ1で約十万円、ISO認証取得を目標にしたステップ2で約三十五万円。全国で六百近い企業などが認証を取得。うち従業員四十人未満が六割を占める。

平成十三年施行の「グリーン購入法」で、取引で環境に配慮した企業を優先する「グリーン調達」が進み、環境規格は重要度を増した。なかでも「ISO14001」は有利に働くケースが多く、認証取得は一万六千件を超えている。

一方で「ISOは負担が大きい」と感じる中小企業も多

く、認証取得に時間も費用もかからない新たな環境規格の普及に期待が高まっている。

「簡易版」について、元祖「ISOの認定機関、日本適合性認定協会」は「環境を考えるすべが広がる」と評価しつつも、「もし安易に認証を出された場合、ISOも同様とみなされ信用にかかわる」と懸念する。

簡易版にとって、認知度アップも大きな課題。大企業で取引条件に加える所も出ているが、EA21もKESもまだISO並みの扱いではない。マコト電気の榎本さんは「EA21は知られていないことが多い」という。

IGESのEA21事務局長、竹内恒夫さんは「中小企業のためにも認知を高めて、三年で認証を二万五千件くらいまでに増やしたい」と話している。

「元祖」は信用失墜を懸念